

令和6年度

奈良県公立高等学校入学者一般選抜学力検査問題

国語

注意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

一 次の文章を読み、各問いに答えよ。

その晩、キースの家に戻った僕は、自分でも彫刻をしてみたいと願っていた。素材は **A** 既に入れた。湖のほとりで見つけた流木だ。美しい水に洗われ続けていたからなのか、岸辺に流れ着いていた枝の多くは樹皮が剥がれ、木肌が銀色に光って見える。その中でもとりわけ輝きの強いものを拾っておいた。長さは1メートルと少し。杖にするのにちょうどいい。

流木の両端には、面白い特徴があった。鉛筆を削ったように尖っているのだ。断面をよく見ると、彫刻刀を使ったかのように、5ミリほどの彫り跡がびっしりと並んでいる。 **B** 典麗な細工を施したのは、実はビーバー。枝を齧った時に歯型がついたのだ。彼らの歯は本当に鋭い。製鉄の技術がなかった時代、キースの祖先はビーバーの歯を枝にくくり付け、彫刻刀として使っていたそうだ。そんなよく出来た刃物を上下の顎に生やしているビーバーは、まさに生まれながらの彫り物師だ。

彼らは辛抱強く、 **C** キンペンな生きものだ。1メートル足らずの体で、何メートルにもわたるダムを築き上げ、流れを堰き止める。彼らを使うのは細い枝だけではない。驚くほど太い木も、根気よく齧っては倒してしまう。しかし、そんな巨大な木を運ぶことはできない。どうするかというと、またひたすら齧って、自分が運べる長さで重さに小分けにしてゆくのだ。人間が薪を作る時、まずは根元から木を倒し、それを数十センチごとに切ってゆくと、同じと言えば同じ要領。でもチェーンソーは使えない。僕の目の前に大木が立っていたとして、それを小さな彫刻刀だけで倒し、切り分け、全部を運ぶ。絶対にできないと思ってしまう。一瞬にして無理だと諦める。でも彼らは、それを当たり前のようにやってのける。

「できない、と思うからできないのさ。まずはやってみれば？」——流

(一) **A**、**B**の漢字の読みを平仮名で書き、**C**、**D**の片仮名を漢字で書け。

(二) 線①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

(三) 線②とは、どのようなことをたとえたものか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア ビーバーは、流木の樹皮を齧って剥がしてしまうほど強い歯をもっているということ。

イ ビーバーは、驚くほど太い木を齧って簡単に倒すほど固い歯をもっているということ。

ウ ビーバーは、1メートル足らずの体には不釣り合いほど大きな歯をもっているということ。

(四) 線③からわかる筆者の思いとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 巨大な木をそのまま運び、水の流れを堰き止めるビーバーの力強さに感動しているということ。

イ ダムを築くために、巨大な木を根気強く齧るビーバーのひたむきさを尊敬しているということ。

ウ ダムを美しく仕上げるために、流木の一本一本に細工を施すビーバーの根気強さに憧れているということ。

エ 自分が運べる長さで重さに小分けした木を用いてダムを築く、ビーバーの賢さを賞賛しているということ。

(五) 線④とは何か。文章中の言葉を用いて三十字以内で説明せよ。

木を介してビーバーが語りかけてくる。ひたむきに打ち込む。絶対に諦めない。何かを固く信じる。僕も彼らの強さにあやかりたい。だからこそ、この流木を彫る。

僕が作ろうとしたのは、キースが教えてくれたトーキングスティックと呼ばれる杖だ。杖といっても、歩くためのものではない。部族の寄合の場で使われる。彼らが大切なことを決める時、トーキングスティックが人々の手から手へと回される。杖を持った者は気が済むまで話す。心の中にある想いを、完全に吐き切る。他の者がそこに口を挟むことは、一切許されない。一人が話し終わると、杖は次の人に手渡され、協議は最後の一人が杖を置くまで続けられる。北米先住民に古くから伝わる風習だ。トーキングスティックには、話し合いを平和裏に進めるために大切な要素が全て詰まっている。発言の機会が平等に与えられる。自分の意見をきちんと述べる。そしてそれ以上に、他者の言葉にしっかりと耳を傾ける。

彫刻に不慣れな僕のために、キースがシンプルなデザインを考えてくれた。モチーフはもちろん、ビーバーだ。流木を杖として突く時の持ち手の部分に、ビーバーの尾を模した連続模様を施す。U字型のデザインをウロコのように刻んでゆく。キースは基準となる **D** フカい切り込みの入れ方、細かい部分の彫り方など、実際に手本を見せながら丁寧に教えてくれた。

ビーバーが届けてくれて、キースの手解きを受けながら、僕が彫る合作。銀色の流木に最初の一刀を入れてから2時間。ビーバーの丸い尾が、トーキングスティックの持ち手部分をぐるりと一周した。杖に魂が宿ったのを、僕は感じていた。

(注) キースは北米先住民の男性の名。チェーンソーは樹木を切る機械。モチーフは主な模様。

(六) 線⑤とあるが、筆者は自分が作ったトーキングスティックにどのような思いを感じているということか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 北米先住民の歴史を教わりながら、自然と共生しているビーバーの図柄を彫ることで、筆者にとって貴重な杖となったと感じている。

イ 北米先住民の風習に倣って、信念をもって生きるビーバーの姿を彫ることで、筆者にとって唯一無二の杖となったと感じている。

ウ キースに誘われ、豊かな自然の象徴であるビーバーを模して彫ることで、筆者にとって価値のある杖となったと感じている。

エ キースに導かれ、不屈の精神をもつビーバーをモチーフとして彫ることで、筆者にとってかけがえない杖となったと感じている。

(七) この文章の表現上の特徴について述べたものとして適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 倒置を用いることで、文章のリズムを整え、伝えたい内容の印象を強めている。

イ 言葉を省略し、読み手に想像させることで、文章全体に味わいや余韻をもたせている。

ウ 文末に現在形を用いることで、たたみかけるようなリズムをもたせ、文章に躍動感を生み出している。

エ 同じ言葉を反復して使うことで、その言葉を印象づけ、筆者の感情の変化に説得力をもたせている。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

人類にとって食料は必需品であり、それなくしては生存できませんから、^①食料生産の手を緩めるわけにはいきません。そんな中、多大な環境面の犠牲を払って、ようやく手に入れた食料です。にもかかわらず、人類はその二割近くを、食品ロスという形で無駄に捨てているわけです。家でリングを食べ、芯の部分がごみになったとします。でもそれは土の中に埋めておけば、しばらくしたら微生物によって分解され、自然の循環へとふたたび戻っていきます。ちなみにその自然循環は、長い時間的スケールで見れば地球規模の循環の一部を成しており、例えば炭素循環・窒素循環・リン循環というように、個々の元素や物質の循環として把握することが可能です。

このように環境には、モノを分解して自然に還すシンク(吸収源)としての機能が備わっています。したがって、出されたごみの量や質がシンクの能力の範囲内に収まっている限り、基本的にごみは発生しません。しかし、能力を超える量のごみが生じた場合、あるいは、そもそも能力の対象外で自然に還らないごみが生じた場合、私たちが暮らす地域(そして地球)はごみで溢れてしまいます。

もしかしたらみなさんは、ごみ問題とは「ごみがたくさん出ること」だと思っていたかもしれませんが、しかし以上のように考えるならば、^②自然循環の輪の中に物質循環が収まらなくなることと表現できるでしょう。そして循環という言葉が、ごみ問題のキーワードであることが見えてくるはずです。それに対して「ごみがたくさん出ること」であるという言い方は、「自然循環の輪の中に物質循環が収まらなくなること」の帰結を表しているに過ぎず、人々が「ごみ」と呼んでいるモノの現象面だけに注目した表現と言うべきです。

自然循環の輪の中に物質循環が収まらなくなるとごみ問題が起こるの

無用な「ごみ」と有用な「資源」は、一見すると対極的な存在です。しかし循環という視点、そしてシンクとソースという概念を身に付ければ、^⑤ごみ(問題)と資源(問題)はコインの裏表の関係であることが分かるはずで、ごみ(問題)を議論することは資源(問題)を議論することでもあるのです。

(注) 食品ロス＝本来食べられるのに捨てられてしまう食品
スケール＝尺度 ソース＝供給源

- (一) 線部と同じ働きをしている「いる」を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
 - ア 彼は東京にいる。 イ この作業は根気がいる。
 - ウ 妹は本を読んでいる。 エ 見事な技に感じいる。
- (二) 線①とはどういう意味か。簡潔に書け。
 - ア 線②とは、具体的にどのようなか。当てはまるものを次のア～オから全て選び、その記号を書け。
- (三) アごみが地球規模の長期的な循環の一部になること。
イ 環境に備わっている能力を超える量のごみが出ること。
ウ 微生物によるごみの分解に長い時間がかかること。
エ ようやく手に入れた食料がごみになること。
オ 自然の循環に戻らないごみが生じること。
- (四) 線③と筆者が考える理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
 - ア なぜごみが発生するのかわかるといふ本質を視野に入れず、結果のみを言い表しているから。
 - イ 循環という言葉で、ごみ問題のキーワードとして用いていることにとどまっているから。

だとすれば、^④自然循環の輪の中に物質循環が収まるような社会を創る

というのが、ごみ問題解決に向けた基本的な戦略になるはずで、そのような社会は、循環型社会と呼ばれています。では、どうすれば循環型社会を実現できるのでしょうか？ 重要なのは、①物質が循環する、②物質循環の輪が自然循環に収まる、の二点を意識することです。以下、詳しく見ていきましょう。

まず①ですが、循環型社会実現の前提として、物質自体が循環する必要があります。そこで欠かせないのが、廃棄されたごみがふたたび資源として生まれ変わり、原材料として生産に利用されるように、モノが生産→消費→廃棄という円に沿って循環するような経済システムです。

それに対して非循環型社会では「原材料として利用しきれないくらいごみが出る」、「ごみを原材料として利用したくても経済的に割に合わず利用が進まない」、「そもそも原材料として利用できないようなごみが出る」といった状況が支配的です。そのため、原材料の調達を天然資源の大量採取に依存したり、ごみを「ごみ」として大量に処分したりする状況が続いているわけです。生産→消費→廃棄が円を描かず一方方向に並び、そこをモノが流れていく、大量生産・大量消費・大量廃棄の経済システムです。

そして②ですが、物質循環の輪の大きさには自ずと限界があり、自然循環という容器の枠を超えることはできません。そしてその容器の大きさは、環境がもつシンク・ソースの能力に規定されます。

環境のシンク能力に限界があるのと同様、ソース能力も無限ではありません。枯渇性資源は、採取を続けられれば文字どおりいつか枯渇しますし、再生可能資源もその再生速度を超えて採取していけば、やはり枯渇してしまうからです。このように、大量生産・大量消費・大量廃棄の経済システムとは、環境がもつシンク・ソースの機能に負荷をかけ続けるシ

- ウ ごみ問題が起こる仕組みを説明する中で、解決策について言及していないから。
- エ ごみが発生する原因のみを強調しており、その後起こり得る結果に触れていないから。
- (五) 線④とあるが、筆者は、そのためにどのような経済システムが必要であると述べているか。文章中の言葉を用い、「…経済システム。」に続くように四十五字以内で書け。
- (六) 【一】の段落は、この文章の中でどのような働きをしているか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
 - ア 前の段落で述べた考えとは異なる仮説を立てることで、この後の新たな論につなげている。
 - イ 前の段落で述べた内容には当てはまらない例を挙げることで、多様な視点を示している。
 - ウ 前の段落で述べた考えとは対照的な現状を示すことで、課題を明確にしている。
 - エ 前の段落で述べた内容を詳しく説明することで、考えをわかりやすく伝えている。
- (七) 線⑤とはどういうことか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
 - ア ごみと資源は物質循環の中の対極に位置づいており、対照的であるということ。
 - イ ごみと資源は物質循環の中で個別に循環しており、それぞれ独立しているということ。
 - ウ ごみと資源はどちらも物質循環のために欠かせないものであり、補い合っているということ。
 - エ ごみと資源はどちらも物質循環の輪の中にあり、それらの問題は一体であるということ。

三

次の文章を読み、各問いに答えよ。

おもしろきところに船を寄せて、「ここやいどこ。」と、問ひければ、「土佐の泊。」といひけり。昔、土佐といひけるところに住みける女、この船にまじれりけり。そがいひけらく、「昔、しばしありしところのなくひにぞある。あはれ。」といひて、よめる歌、

年ごろを住みしところの名にし負へば来寄る波をまあれとぞ見るとぞいへる。

〔土佐日記〕による

(注) おもしろきところ＝景色のいい場所 いどこ＝どこ 泊＝港

そがいひけらく＝その人が言うことには なくひ＝同じ名あなる＝であるようだ

(一) 線①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア もし尋ねたとしたら イ 尋ねたところ
ウ たとえ尋ねたとしても エ 尋ねたものの

(二) 線②を現代仮名遣いに直して書け。
文章中の歌は「女」のどのような思いを詠んだものか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア この港から見える景色が以前に住んでいた所と似ていたことから、この地に親しみを感じて安心する気持ち。
イ この港から見える景色が自分の生まれた所を連想させるものだったことから、故郷から遠く離れたことを後悔する気持ち。

【発表の進行案】

Table with 4 columns: 時間, スライド資料, 話すこと, メモ. It details a 3-minute presentation plan for a library opening, including points about the space and meeting opportunities.

(一) 【発表の進行案】からわかる春香さんの発表の特徴として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
ア 伝えたい内容の説得力を高めるため、裏づけとなる客観的なデータを含んだ資料を提示している。

ウ この港の名が以前に住んでいた所と同じ名であることを知ったことから、その地を思い出してなつかしむ気持ち。
エ この港の名がかつて出会った人と同じ名であることを知ったことから、その人に会えないことを悲しむ気持ち。

四

次の□内の文は行書で書かれている。楷書で書くときと筆順が異なる漢字はどれか。当てはまるものを後のア～エから一つ選び、その記号を書け。

夕空が紅に染まる。

- ア タ イ 空 ウ 紅 エ 染

五

春香さんは、国語科の授業で、資料や機器を活用して発表する学習に取り組んでいる。テーマは「私のおすすめの場所」で、春香さんは、プレゼンテーションソフトを用いたスライド資料を活用し、地域に住む田中さんが運営する図書室「青垣ライブラリー」を紹介した。次は、春香さんが作成した【発表の進行案】である。これを読み、各問いに答えよ。

- イ 伝えたい内容を印象づけるため、間の取り方や資料を表示するタイミングを工夫している。
ウ 聞き手に内容をできるだけ詳細に伝えるため、スライド資料に多くの文字を表示している。
エ 聞き手の興味を引くため、反応に応じて話す順番や提示する資料を変更できるように準備している。
(二) 次は、春香さんが授業で話した【発表の一部】である。春香さんの説明の仕方の解説として最も適切なものを、後のア～エから一つ選び、その記号を書け。

【発表の一部】

次にお話するおすすめポイントは、「出会い」です。青垣ライブラリーには、二つの素敵な出会いがあります。
一つ目は、素敵な本との出会いです。先日、田中さんに、国語科の授業で『枕草子』を学習したことを話したところ、平安時代の貴族の暮らしについてわかりやすく解説した本を紹介してくださいました。二つ目は、人との出会いです。本を紹介してもらった翌週に、その本を読んだことのある先輩が青垣ライブラリーに來られ、面白いと思った部分について話し合い、楽しい時間を過ごすことができました。

- ア 聞き手が質問しやすいように、何度も問いかけながら話している。
イ たとえを用いながら、内容を印象づけるように話している。
ウ 初めにこれから話す内容を端的に示し、項目立てて話している。
エ 接続する言葉を効果的に用い、筋道立てて話している。
(三) あなたが友達にすすみたい場所について、次の①、②の条件に従って書け。
条件① 二段落構成で書くこと。第一段落では、すすみたい場所を具体的に書き、第二段落では、すすみたい理由を書くこと。
条件② 原稿用紙の使い方に従って、百字以上百五十字以内で書くこと。